

令和元年度
新潟県農業再生協議会
(令和元年5月28日開催)

議事録

令和元年度新潟県農業再生協議会通常総会 議事録

日時：令和元年5月28日

午後2時50分～4時00分

場所：J A新潟ビル5階特別会議室

開会

- 定刻となったので総会を開会する。
- はじめに、本協議会の石山会長より、開会のごあいさつを申し上げる。

開会あいさつ（石山会長）

- 本日は御多用の中、御出席をいただきまして感謝申し上げます。
- 30年産においては、作柄不良等により結果として価格下落は回避された。しかしながら、令和元年産の作付けについては、拡大傾向にあり、需要量の減少も相まって、豊作であった28年産の水準になるのではないかと懸念されている。
- この令和元年の取り組み次第では、再び需給が緩和し、米価が下落する恐れがある。
- このため、需要に応じた多様な米づくりを強化するとともに、主食用米と非主食用米を合わせた新潟米全体の需要拡大と、ブランド確立による所得確保の取り組みに向けて、より一層関係者が連携し、本協議会の事業を展開する必要があると考えている。
- 本日は、30年度の事業報告・収支決算および令和元年度の事業計画・収支予算、役員を選任等について、委員の皆様からご審議を賜りたい。忌憚のないご意見を賜るようお願い申し上げ、開会の挨拶とする。

事務局

- 本協議会は原則公開としており、議事録についても、「新潟米」情報センターのホームページに公開することとなっているので、承知願う。
- 本日の出席状況を別紙の出席者名簿で確認する。
～出席者名簿により確認～
- 規約第15条に基づき、本協議会は成立する。
- なお、本日は16時頃の閉会を目途に、検討をお願いする。
- それでは、これからの進行について、石山会長にお願いしたいが、いかがか。

会員：異議なし

- それでは、石山会長をお願いします。

石山会長

- 次第に沿い、議事の進行を務めさせていただく。
- なお、本日の議事録については、事務局で作成することとし、議事録署名人の選任について、恒例により一任いただきたいが、いかがか。

会員：異議なし

- 異議なしと認め、議事録署名人を全国農業協同組合連合会新潟県本部 浅井副本部長、新潟県担い手育成総合支援協議会 松井事務局長のお二方をお願いする。
- 第1号議案平成30年度事業報告及び収支決算について、事務局から説明をお願いする。

事務局

- ～平成30年度事業報告（案）（第1号議案 資料1）～
- ～平成30年度収支決算（案）（第1号議案 資料2）～

石山会長

- 監査報告を新潟県農業共済組合連合会 五十嵐会長理事よりお願いする。

監事（新潟県農業共済組合連合会 五十嵐会長理事）

- ～監査報告書（第1号議案 資料3）～

石山会長

- 第1号議案について質疑に入る。意見、質問は無いか。
- 無いようであるので、第1号議案は承認することに決定してもよろしいか。

会員：異議なし

石山会長

- 異議なしと認め、議案第1号は原案のとおり承認された。
- 続いて、第2号議案令和元年度事業計画及び収支予算について、事務局から説明をお願いする。

事務局

- ～令和元年度事業計画（案）（第2号議案 資料1）～
- ～令和元年度収支予算（案）（第2号議案 資料2）～

石山会長

- 第2号議案について質疑に入る。意見、質問は無いか。

新潟県担い手育成総合支援協議会 松井事務局長

- 令和元年度の計画について、適正生産が必要と説明を頂いたが、そこに向けた今後の対応については、総会議案の終了後の説明の中で行われるのか。

事務局

- 国からの情勢報告も予定しているので、そこで合わせてご説明させていただきたい。

石山会長

- 他に無いようであるので、第2号議案は承認することに決定してもよろしいか。

会員：異議なし

石山会長

- 異議なしと認め、第2号議案は原案のとおり承認された。
- 続いて、第3号議案役員の選任について、お諮りする。いかがか。
- 特に発言が無いようなので、事務局案を説明したいがよろしいか。

会員：異議なし

石山会長

- 異議は無いようであるので、事務局案を説明する。

事務局

～役員の選任について（第3号議案資料）～

石山会長

- 事務局案の説明について、いかがか。意見、質問は無いか。
- 無いようであるので、事務局案について賛同いただける方の拍手をお願いする。

会員：拍手

石山会長

- 拍手多数と認め、第3号議案は事務局案のとおり決定した。

- 協議事項は以上となる。
- 次に、2019年度新潟県水田フル活用ビジョン（案）について、県より説明をお願いする。

県農産園芸課 牛腸課長

～2019年度新潟県水田フル活用ビジョン（案）（別紙資料）～

石山会長

- 新潟県水田フル活用ビジョン（案）について検討をお願いする。意見、質問は無いか。
- 無いようであるので、原案のとおり検討結果として賜るが、いかがか。

会員：異議なし

石山会長

- これを本協議会の検討結果とするので、よろしく願う。

県農産園芸課 牛腸課長

- 熱心な協議に感謝申し上げます。検討結果を踏まえ、県としてビジョンを作成し、国に提出したい。

石山会長

- 以上で用意した議事は全て終了した。何かあれば意見を伺う。
- 無いようであるので、以上で議事を終了させていただく。
- それでは、「令和元年産の需要に応じた米生産について」の議題に移る。
情勢報告として北陸農政局新潟県拠点 渡邊総括農政推進官より報告をお願いする。

北陸農政局新潟県拠点 渡邊総括農政推進官

- 昨年、一昨年と作況が悪かったことから、30年産米の米価については、維持されているところである。
- 30年産の販売状況については、新潟は2年連続の不作であったことから引き合いが強く、販売量は前年同月比でも増えている。一方、全国的には3月時点での段階では、米の需要減は進んでいる。
- 新潟県の作付動向については、主食用米は前年並みであるが、加工用米、米粉用米の減少が見込まれるのが懸念材料である。備蓄米については、第5回の入札から農業者別の結びつき要件の廃止などをした結果、7回目までに24,695トンの入札が行われている。
- 4月末現在の作付動向状況を近々に公表する予定だが、このまま水田活用米穀が下が

ってしまうと、主食用米が前年の作付を上回るのではないかとの懸念を持っている。水田フル活用ビジョン、水田活用交付金を十分活用して、非主食用米に取り組んでもらいたい。

- 営農計画書の締切まであと 1 ヶ月であるが、備蓄米の県別優先枠の活用と、主食用米から加工用米、米粉用米への振り替えを念頭に置いて、需要に応じた生産の取組をお願いしたい。

石山会長

- ただいまの説明について、質問を受けるが、いかがか。
- 無いようなので、県から「令和元年産米の生産に係る今後の対応について」説明願う。

県農産園芸課 牛腸課長

- 令和元年産の主食用米の作付面積は、2 月末時点で前年産並と見込まれていたが、直近の 4 月末現在の取りまとめでは、前年産を上回る状況と国は見通している。
- 今後、主食用米についての需要の裏付けの再精査を地域農業再生協議会や認定方針作成者に要請する。精査の方針としては、
「需要の裏付けのない主食用米のうち、こしいぶき等の品種については、集荷業者の判断により、備蓄米に転換すること」
「需要の裏付けのない主食用米のうち、多収性品種については、加工用米や米粉用米などの需要のある非主食用米に転換すること」
「落札した備蓄米について、多収性品種があれば、加工用米や米粉用米などに転換するとともに、その見合いの数量を主食用米から振り向けること」
とし、生産者の手取りを確保しながら、需要に応じていくものである。

石山会長

- ただいまの説明について、質問を受けるが、いかがか。

全農にいがた 浅井副本部長

- 今回 4 月末の作付動向は矢印で示されているが、具体的に数字での発信はできないか。

北陸農政局新潟県拠点 渡邊総括農政推進官

- あくまでも増加、横ばい、減少の 3 段階の矢印で行う。取りまとめの見込み数値の積み上げであり、数値として精査はされていないため矢印での公表としている。

新潟県担い手育成総合支援協議会 松井事務局長

- 今後の対応について、数字が入っていないが、生産者にとって得か損かの経営上のメリットを示し、農家の判断に訴えかけるものとならないか。

県農産園芸課 牛腸課長

- ご指摘のとおりである。転換した際の数値を示しながら進めていく。

県農林水産部 山田部長

- どんな対応がとれるか、膝詰めでやっていく。

石山会長

- 他に無いようであれば、これにて終了とさせていただく。

事務局

- 閉会に当たり、県農林水産部 山田部長からごあいさつを申し上げる。

閉会あいさつ（県農林水産部 山田部長）

- 本日は令和元年度事業計画、収支予算ならびに水田フル活用ビジョンについてご協議いただき感謝申し上げます。
- 本年は新たな米政策2年目になるが、昨年11月に国が示した基本指針においては、従来の毎年8万トンとしていた需要減少トレンドが10万トンに下方修正されるなど、令和元年産米については、需給の安定化に向けた取組が一層重要となっている。
- 県協議会としては、県産米の需給動向等を情報発信するとともに、自らの目標や需要と生産見込みとの乖離が大きい地域農業再生協議会に対しては、需要のある非主食用米等の取組を働きかけ、米全体の需要拡大と農業者所得の最大化を目指すことが重要と考えている。
- 本日お集まりの皆様におかれましても、それぞれのお立場から本県の水田農業が将来にわたり発展できるよう一層のご尽力をお願いし、閉会のあいさつとさせていただく。

事務局

- 以上をもって、令和元年度の新潟県農業再生協議会通常総会を閉じさせていただく。

議事録署名人

浅井 昇 

議事録署名人

松井基晴 